(115) 栃木県鹿沼市の石裂（おざく）白根鉱山

この鉱山跡の探査は、参考文献（１）、（２）を手引きにして行った。文献（１）からは、石裂地区の北方に聳えている標高７１８ｍの白根山の南側尾根付近にあることがわかった。しかし、この鉱山跡へ至るべき道が全く記載されていないので、探査に出かけるには資料不足として、探査を控えていた。が、文献（２）から、鉱山への入り口は、白根山及び鉱山跡を北北東に見る当たりであることがわかった。探査に出かけた、現地で住民の人と話せることができた。マンガン鉱山のことを知っていた。そして、鉱山への入り口をほぼ確定できた。入り口付近に車を駐車し、林道を上りあがること約３００ｍで、鉱山跡を確認することができた。坑口跡が幾つもあり、ズリも一杯である。

この鉱山跡への経路は次の通りである。既報の加蘇鉱山後に向かって、荒井川に沿って進んでいく。加蘇鉱山跡を過ぎ、さらに西行して、石裂地区に入る。左手に加蘇山神社の建物と敷地、進んできた道は右に急カーブして、橋を渡ることになる。橋を渡ってから、通行に妨げにならないところで、車を止めておこう。これから徒歩となる。橋から約２００ｍ、先の右手に、林道への入り口がある。

本鉱山の主要鉱物は、マンガン鉱石。鉱山跡では、露天掘り跡、及び尾根部では露頭鉱脈なども観察できる。ズリにはバラ輝石が豊富である。ただ、標高差３００ｍを登り切る必要がある。

探査日　　２０１２年４月

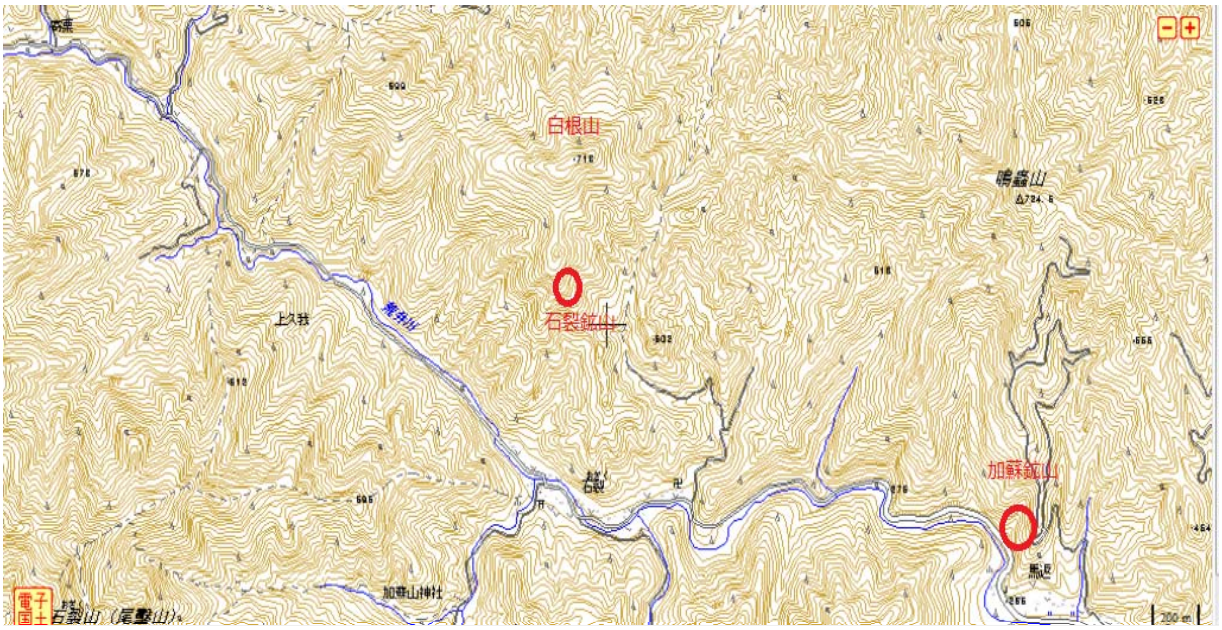

図１　国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。右下丸は加蘇鉱山跡、真ん中丸が石裂鉱山跡。標高７１８ｍ野山が白根山。

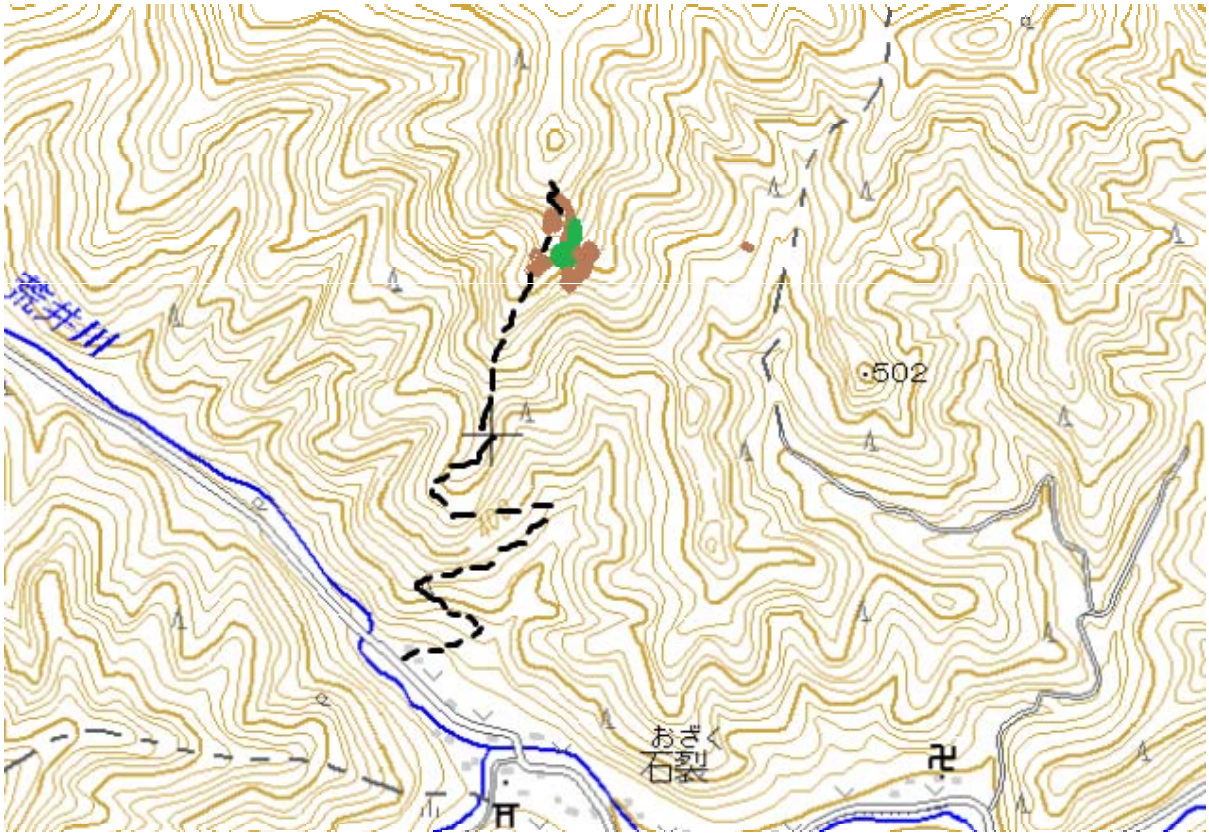

図２　図１の部分拡大図。道路から鉱山跡への林道の入り口は、草木が生い茂った時期には、わかりにくいと思う。後掲の現地の写真を参考にすると良い。林の中には林道があり、上へ上へと登って行く。そのうち林道は尾根に至り、消える。尾根を登って行く。緑丸は坑口跡。並んで幾つもある。鉱脈に沿って掘ったようである。茶色はズリ。上方の茶色線分は露天掘り跡。

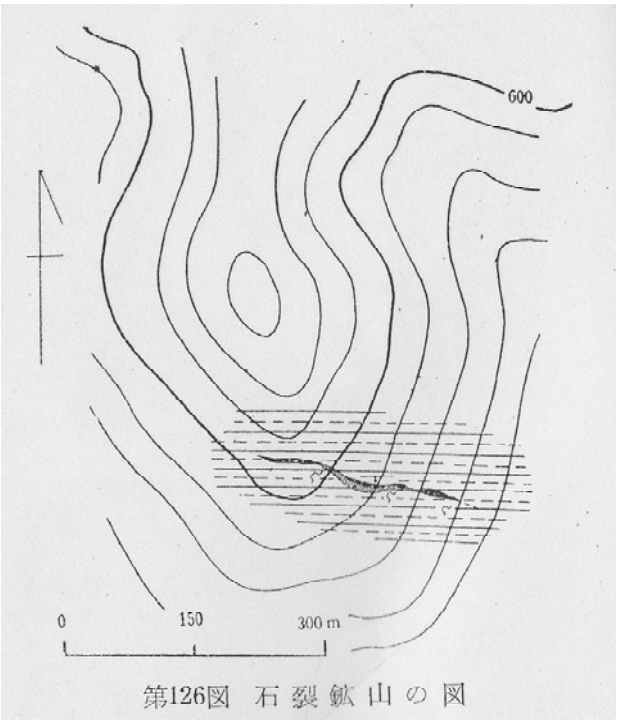

図３　参考文献（１）から複写掲載。鉱脈及び坑口群の並びが、探査結果と全く会わない。今回の探査で見つけたのは、別の坑口群なのか？周囲を探査したが、この図のような配置の坑口などは見つけられなかったのであるが。再探査が必要か？

鉱山跡写真

写真１橋を渡った先の道路。少し先で右側の林の中に入っていく。

写真２　この所から、林の中に入っていける。

写真３　林の中に入る。草木の生い茂った時期には、それらを掻き分け掻き分けして進むことになろう。林の中には林道があり、それに従って、上へ上へと登って行く。

写真４　途中、尾根当たりで道は消えるが、尾根の上を登って行く。目の前にズリがあった。この少し先で、道らしい痕跡があるので、右側の斜面に入っていく。

写真５　尾根から直ぐ先に、埋もれかかっている坑口群があった。斜面に向かって左下から右上に連続している。

写真６　坑口の１つ。

写真７　坑口下はズリである。

写真８　写真４の尾根のズリ跡から、さらに尾根を少し登り上がると、ズリがあり、また露頭鉱脈もある。露天掘りの跡が確認できる。露天掘り後を下から尾根に向かって撮影している。

写真９　尾根にあった露頭マンガン鉱石岩石

採集鉱物写真

写真１０　黒くて重そうなのを割った。破断面はピンク色である。マンガン鉱。

参考文献

（１）「日本のマンガン鉱床」、吉村豊文、マンガン研究会資料、１９５２年。
（２）「鉱物観察ガイド」、松原　聡編著、東海大学出版、２００８年。

付記　参考文献（２）では、林の入り口付近にズリは十分にあり、坑口付近は成果なしとの記述があった。が、本探査の結果は、全く逆であった。林道入り口が違っているのかもしれない。また、前述しているが、見つけた坑口群が、文献（１）の坑口群と異なっているのかもしれない。経路及び鉱山跡は確認できたので、機会を見て再探査をしてみたい。